

神奈川県立あおば支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

審議会等名称	令和7年度 神奈川県立あおば支援学校 第5回学校運営協議会	
開催日時	令和8年3月3日(火) 9:30~11:30	
開催場所	あおば支援学校 会議室	
出席者	学校運営協議会委員9名(3名欠席)、本校職員:事務局5名 見学者1名	
次回開催予定日	令和8年5月13日(水)を予定	
問合せ先	神奈川県立あおば支援学校 副校長 鈴木 智子 電話 045-978-1161 FAX 045-978-1160	
下欄に掲載するもの	議事録	公開を概要とした理由
審議・会議経過	<p>(1) 開会</p> <p>(2) 学校長挨拶</p> <p>○最近の学校の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川学校給食夢コンテストで、本校の高2生徒の提案したメニューが入賞し、県庁で表彰を受けた。また富士スーパーで販売された。 ・インシデント報告で、誤嚥による窒息事故があった。大事には至らなかったが、教職員による研修を行い再発防止に努めている。今後、保護者と教職員が一堂に会しての研修会を計画している。 ・大型絵本プロジェクトによる絵本が完成し、読み聞かせの会を行った。絵本の作者が読み聞かせを行う場面もあった。 <p>(その他、校外行事等を写真で紹介)</p> <p>○来年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の児童生徒数については、小中学部の児童生徒が増加傾向。 ・中型バス新規に配備される。(マイクロバスは現行2台から1台になる。) ・校務DX推進の一環で、「すぐーる」と「スクールエンジン」の運用が始まる。学校と保護者間のやり取りに使用していく。 ・校内研究を推進する。(令和8年度は4年単位の研究の3年目になる。) ・教育課程、日課表の変更を行い、適正の時数にする。下校時刻が早くなる分の時間を活用し、授業の質を高めることを目指す。 <p>(3) 学校運営協議会</p> <p>○ここから進行、竹原会長</p> <p>学校評価アンケートについて説明(副校長)</p> <p><保護者、教職員による学校評価アンケート></p> <p>保護者、教員ともに、全体的には高評価。その中で比較的評価が低めだったものは、ICT機器の活用と外部人材の活用。</p> <p>→高等部は一人一台端末が既に整っており活用が進んでいる。小中学部は今年度からの配備であったので、活用については今後の課題</p> <p>→あおば支援は外部人材を多く取り入れ活用しているが、そのことに関する発信が不足していたのが要因と推測される。</p> <p><人権が尊重された授業づくりについて></p> <p>「さん付け呼称」や「指導時間中のスマートフォンの携帯」等に課題あり。</p>	

学校評価（校内評価）について（校長）

<教育課程学習指導>

- ・校内研究において外部講師を活用し、取り組んだ。
- ・単元計画の作成、振り返りが進んでいる。
- ・ICT活用が進んでいる。

【課題】

- ・単元計画の作成、振り返りの実施にばらつきがある。
- ・ICT活用について、小中学部はこれからである。

<児童・生徒指導・支援について>

- ・アセスメントの理解が深まり、個別教育計画への反映が進んでいる。
- ・意思決定支援の取り組みが進んだ。

【課題】

- ・実践の質にばらつきがある。
- ・次年度も外部講師を活用していきたい。

<進路指導・支援について>

- ・あおばまるとの連携により、大学訪問や学生との交流を行い、地域とのつながりによる学びが深まっている。
- ・校内での学びを校外に広げ、段階的な学習展開が進んだ。

【課題】

- ・地域交流活動のねらいを明確にし、PDCAでの改善に取り組む必要がある。
- ・公共交通機関や施設利用の経験が少ない児童が多い。計画的な学習の積み重ねが求められる。

<地域等との協働>

- ・地域資源の活用が進んでいる。
- ・地域の団体と協力し、行事の円滑な運営ができた。

【課題】

- ・目的を明確にすること。
- ・教育課程への位置づけ。

<学校管理・学校運営について>

- ・業務のスリム化が進んだ。
- ・チャットの活用が進んだ。

【課題】

- ・書式や仕組みの改善等、環境整備を進めていきたい。
- ・防災に関する取り組みを更に進めていきたい。

全体を通して

- ・授業改善、個別支援、地域連携、防災体制づくり等に前進が見られた。
- ・一方で、振り返りの質のばらつき、ICTの活用やアセスメントの活用に差があること、地域活動の目的明確化、業務の標準化、組織としての仕組みづくり等が次の課題

である。

- ・継続可能な体制づくりを行い、PDCA が自然に回る学校づくりを目指す。

～3つのグループに分かれて協議を実施～

(Aグループ)

- ・進路指導支援について、公共交通機関や施設利用に関する話をした。
- ・教職員の働く環境整備に関する話をした。例として、連絡帳の ICT 活用、意義、あり方等について。
- ・「さん付け呼称」の実施率が低い。小学部は小さい子どもという感覚があるかもしれないが、人権やアイデンティティに係るところなので、「さん付け呼称」が推進されるとよい。
- ・外部人材を多く活用しているが浸透していない。その部分の情報発信が少ないのかもしれない。

(Bグループ)

- ・電子黒板での視線入力、ICT 支援員の活用、3D プリンターの活用等 ICT 活用は今後進んでいくと思う。
- ・外部人材の活用について、校長室横の廊下に活用状況の掲示あり。教育課程への位置づけを進める。
- ・防災対策について、水害はイメージしにくいのが、警報が発令されてからの 10 分間をイメージできるとよい。昔、実際に避難した人の話が聞けるとよい。
- ・わくわくフェスタは地元の団体にリードしていただく予定。地元の力を活用させていただく。そこで育った子どもたちが、また、地元の力となっていく。

(Cグループ)

- ・水害に関して、1階に電源があることが課題。屋上に広げられるソーラーパネルもある。購入を具体化していく必要がある。
- ・一人一台端末の活用にあたっては、「約束事」が大事。生活する上で、ICT 機器の最低限の使い方を知ってほしい。卒業後の仕事にもつながっていくと思う。
- ・防災のハード面をこれからどう整備していくか。あおばの会として協力をどのようにしていくかというところも考えて行きたい。

協議内容を受けて、校長より

- ・公共交通機関を小学部から利用していくことで、徐々に慣れてほしい。
- ・「さん付け呼称」の浸透を学校として目指して行きたい。
- ・外部講師が多く入っていることの認知について、職員が入れ替わっても繋がっていく仕組みづくりが必要。
- ・ICT 活用につて、安全に利用するための研修も必要。ICT 支援員の活用も進めたい。
- ・3月に視線入力装置が入ってくるので、教員も学び、活用を進めたい。
- ・水害について、イメージができていない。教員の避難訓練も必要ではないかと話している。
- ・ソーラーパネルの蓄電池を1つ購入した。まずは、ケアルームで使ってみる。来年度は、医療的ケアの部分に補える蓄電池が入る予定。発電機が足りないのので、購入し

	<p>て行きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわくフェスタの開催に向けて、この後の会議で、また相談したい。 <p>～以下、各委員より意見～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわくフェスタは、小さく始めて行く予定。 ・「さん付け呼称」は鉄小学校では、オフィシャルなどところでは下の名前にさん付け。遊びの場面等ではさん付け無しという状況。 ・授業に外部講師が多く入っていることはわかるが、内容までは詳しくわからない。どういう団体が関わっているかという情報が保護者に伝わるとありがたい。 ・校長室横にカリキュラム表が貼ってあるが、校長室横は、保護者があまり入ってこない。 ・個人情報保護の観点から、活動中の写真を広報に使えない。 ・ペーパーはよく見るという話がある。紙ベースで情報が出されるとよいかもしれない。継続的に来校している団体を紹介できるとよいかもしれない。 ・(民間企業では) 業務改善として、「何を辞めるか」が難しい。 ・学校運営協議会はスクラップ機能がある。「学校運営協議会で決めたので、辞めます。」とすることができる。 ・スクラップビルドを目指している。わくわくフェスタはその一例。スポーツフェスタの代わりにわくわくフェスタを行う。学校主導から、地域主導に移行していく。 <p>○次年度の学校運営協議会について (副校長)</p> <p>次年度も年5回開催予定。</p> <p>○まとめ 校長より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くのご意見をいただき感謝すると共に、来年度の学校運営に活かしていきたい。 ・地域貢献を教育課程にしっかり位置付けていきたい。 ・ICT活用を進めて行くために、教員が研修を行い、教育活動に活かして行く。 ・防災に関しては、より実践に活かされるような避難訓練を行っていきたい。 ・日課表の見直しが、より良い授業づくりに繋がるようにしたい。
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度 第5回学校運営協議会 次第 ・令和7年度 学校評価 ・保護者による学校評価アンケート結果 ・教職員による学校評価アンケート結果 ・教育活動に期待すること ・人権が尊重された授業づくりについて